



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月14日

上場会社名 株式会社エムアップホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 3661 URL http://www.m-up.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤宏一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	10,019	9.1	1,379	51.2	1,458	52.5	844	50.1
2021年3月期第3四半期	9,185	13.3	912	57.2	956	62.4	562	69.5

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 1,140百万円(458.2%) 2021年3月期第3四半期 204百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	23.37	23.21
2021年3月期第3四半期	15.43	15.42

(注) 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の計算においては前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した上で算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	13,828	5,393	36.8	149.24
2021年3月期	11,761	4,454	36.2	117.79

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 5,082百万円 2021年3月期 4,255百万円

(注) 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。1株当たり純資産の計算においては前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した上で算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	23.00	23.00
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期（予想）				7.00	7.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注2) 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っており、2021年3月期については、当該株式分割前の配当金の額を記載しております。なお、株式分割を考慮した場合の2021年3月期の配当金は5円75銭となります。

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

通期	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
	13,600	10.3	1,700	53.6	1,700	45.5	1,000	58.0	27.41

（注1）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

（注2）当社は2022年1月1日付で、普通株式1株につき4株の割合で株式分割をしております。1株当たり当期純利益につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

（注3）当社は、予算編成を通期ベースで行っており、業績の進捗管理およびその評価は通期でのみ実施しているため、第3四半期（累計）期間における業績予想については、開示しておりません。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	36,479,988株	2021年3月期	36,468,388株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	343,296株	2021年3月期	342,940株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	36,126,816株	2021年3月期3Q	36,463,876株

（注）当社は2022年1月1日付で、普通株式1株につき4株の割合で株式分割をしております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数（自己株式を含む）、期末自己株式数および期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）5ページ「1. 当四半期決算に関する定性情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(連結の範囲又は持分法の範囲の変更) .....	10
(セグメント情報等) .....	10
(重要な後発事象) .....	13
3. その他 .....	14
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和され、社会経済活動が正常化に向かう中で、個人消費など一部に持ち直しの動きも見られております。

しかしながら、先行きについては、新たな変異株による感染の動向やその影響、供給面での制約など下振れリスクも懸念されており、なお不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域であるインターネット関連市場は、第5世代移動通信システムの商用化が始まり、今後の新たな市場の創生と拡大への期待が高まっております。また、新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う自粛により、社会経済活動は制限される一方で、自宅からのインターネットの利用頻度や時間は顕著に高まっております。また、社会のデジタル化やエンタテインメントの分野をはじめとした各種サービスのデジタル活用も急速に進んでおります。

こうしたテクノロジーの進化や新たなビジネス、サービスの創出は加速しており、事業環境は目まぐるしく変化しております。

音楽やアーティスト関連の市場では、依然として新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、一部に回復の兆しも見えております。2021年(上半期)の音楽ソフト(オーディオレコード及び音楽ビデオ合計)の生産金額は880億円(前年同期比5.8%増)、音楽配信の販売金額が438億円(前年同期比5.5%増)となりました(出所:一般社団法人日本レコード協会)。自宅等でのストリーミングサービスの利用増加により、音楽配信が引き続き拡大するとともに、大きく減少していた音楽ソフトの市場も増加に転じております。

ライブ、コンサート市場は、新型コロナウイルス感染症の影響が非常に大きく、多くのライブ、コンサートが開催の自粛により中止、延期となったことから、2020年の公演回数は43,372回(前年同期比68.1%減)、収容人数制限の影響により動員数は1,480万人(前年同期比82.1%減)となり、これにより市場規模は1,106億円(前年同期比82.4%減)となりました(出所:ライブ・エンタテインメント調査委員会)。足下の状況としては、イベント開催制限の緩和に伴い、十分に感染症対策を講じた上でライブ、コンサートを再開する動きも見られ始めており、徐々にではあるものの公演回数、動員数ともに増加してきております。

音楽市場の中でも特にライブ、コンサートを筆頭とした従来からのエンタテインメントのフォーマットにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響がより大きく見られました。その一方で、有料のライブ配信やサブスクリプション型のストリーミングが普及、拡大し、デジタルシフトが急速に進むなど事業環境は変化しており、それらを的確に捉え、競争力を維持、向上させていくことがより重要となってきております。

このような外部環境の中、当社グループでは、アーティストを中心としたエンタテインメント全般を事業領域とし、ファンクラブサイトを事業の軸に据えファンという強固な事業基盤を構築し、電子チケットやeコマース、キャラクター、音楽などの多岐にわたるデジタルコンテンツの配信など複合的な事業展開をしております。加えて、エンタテインメントのデジタル化、DX化など事業環境の変化に対応すべく、ライブ及びVR配信やファンクラブのプラットフォーム化、NFTなど今後の成長分野での新たな事業領域の開拓と、新規サービスを通じた顧客接点の強化による収益の拡大も推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は10,019百万円(前年同期比9.1%増)、営業利益は1,379百万円(前年同期比51.2%増)、経常利益は1,458百万円(前年同期比52.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は844百万円(前年同期比50.1%増)となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

## 1) コンテンツ事業

### a. コンテンツ事業に係るファンクラブ・ファンサイト事業等

コンテンツ事業では、主にスマートフォン向けにファンクラブサイト運営や各種デジタルコンテンツ配信、動画サービス、アプリの提供などを行っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルス感染症によるライブやコンサートの開催自粛の影響から、ファンクラブ/ファンサイトの会員数に減少が見られていたものの、ライブ、コンサートが徐々に再開されるに伴い、会員数は下げ止まりから上昇に転じております。加えて、新規ファンクラブ/ファンサイトの開設と新規会員の獲得が順調に進んだことから、全体の会員数は増加させることができました。

動画視聴専用アプリ「FanStream」や、VRでのライブ生配信や様々なVR映像コンテンツを提供する「VR MODE」を通じたライブ配信も継続し、新型コロナウイルス感染症の影響により音楽ライブやイベントが開催できない状況へに対応したライブコンテンツの提供も行っていました。

前期より開始したファンクラブ/ファンサイトのポータルメディア「Fanpla」や、ファンクラブのプラットフォーム「Fanpla Kit」の普及、利用拡大もすすめるとともに、オンラインサロン「Fanpla Rooms」、ファンクラブ向けのオンラインくじ「Fanpla Chance」の新規サービスの提供も開始いたしました。加えて、クラウドファンディングやNFTなど新たなサービス展開の準備も推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業に係るファンクラブ・ファンサイト事業等の売上高は7,634百万円(前年同期比3.6%増)となりました。

### b. コンテンツ事業に係るEC事業

EC事業につきましては、主に当社グループの運営するファンクラブサイト等を通じて、アーティストグッズとCD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品の販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、緊急事態宣言や自粛に伴い巣ごもり需要が増加したこと、アーティストグッズ等の販売がライブやコンサート等の会場からECへとデジタルシフトが進んだことから、EC事業の収益基盤も拡大しており、アーティストのオンラインストア等を積極的に開設してまいりました。上期においては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や延期となったコンサートグッズのEC販売という特需が剥落し、商品の取り扱いも減少してまいりましたが、ライブやコンサートの再開に伴い、第3四半期には商品の取扱いは増加してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるEC事業の売上高は724百万円(前年同期比12.4%減)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業全体の売上高は8,359百万円(前年同期比2.0%増)、セグメント利益は1,449百万円(前年同期比2.1%減)となりました。

## 2) 電子チケット事業

電子チケット事業は、電子チケット及びチケットトレード、並びにそれらに付随する各種サービスからの収益により構成されております。音楽のライブはもちろんのこと、プロ野球やフィギュアスケートといったスポーツ、遊園地などのレジャー施設まで幅広く電子チケットサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、非接触による精度の高い顔パス入場システムやワクチン・検査パッケージの導入など新たな取り組みを行ってまいりました。いまだ新型コロナウイルス感染症の影響は残り、電子チケット及びチケットトレードに関連する収益は低調な水準が続いているものの、徐々に有観客でのライブ、イベントは増加しつつあり、電子チケットの発券枚数やチケットのトレード数は想定以上に推移するなど、マーケットシェアを拡大させることができました。

また、ライブと連動する施策として展開する、アーティストのサイン入りのグッズなどの商品を提供するオンラインくじ「くじプラ」についても、キャッシュレス決済への対応などにより順調に販売を拡大させることができました。

加えて、ライブの生配信やオンライン配信の視聴パスを販売するプラットフォーム「StreamPass」や、安心安全な1on1イベントを実現するライブトークアプリ「Meet Pass ライブトーク」などの提供により、収益の確保に努めてまいりました。

電子チケット周辺領域のサービスといたしましては、プロ野球等のカードコレクションアプリにおいて、新たに1球団のサービスを提供開始するなど、販売は堅調に増加させることができました。

今後もカードコレクションアプリのスポーツ以外への横展開やNFTなどのさらなる付加価値の提供により、選手カードを中心に周辺領域でのビジネスも拡大させていくことを計画しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるチケット事業の売上高は1,596百万円(前年同期比68.7%増)、セグメント利益は318百万円(前年同四半期は129百万円の損失)となりました。

3) その他事業

その他事業には、上記3つのセグメントに属さない連結子会社の収益等が計上されており、主にキャラクターグッズやアパレル、出版、プロダクション業務などが含まれております。

当第3四半期連結累計期間におきましても、将来の収益獲得に向けた事業育成を行うとともに、アニメ作品の公式オンラインストアの運営、受託などを行い、売上高は62百万円(前年同期比51.3%増)、セグメント利益は9百万円(前年同四半期は0.4百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は13,828百万円(前連結会計年度末比17.6%増)となりました。

流動資産は9,549百万円(同26.1%増)となりました。主な内訳は、現金及び預金5,985百万円(同26.3%増)、売掛金2,004百万円(同40.0%増)となっております。

固定資産は4,278百万円(同2.1%増)となりました。主な内訳は有形固定資産1,109百万円(同46.0%増)、のれん600百万円(同21.4%減)となっております。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は8,265百万円(前連結会計年度末比16.4%増)となりました。主な内訳は、買掛金3,960百万円(同42.0%増)、未払金1,689百万円(同65.8%増)、前受金1,192百万円(同35.8%増)、預り金996百万円(同26.4%減)であります。

固定負債は169百万円(同16.3%減)となりました。主な内訳は繰延税金負債121百万円(同21.9%減)であります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は5,393百万円(前連結会計年度末比21.1%増)となりました。主な内訳は、資本金313百万円(同0.9%増)、資本剰余金3,684百万円(0.1%減)、利益剰余金1,685百万円(同60.9%増)、その他有価証券評価差額金△398百万円(同32.4%減)であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、引き続き新型コロナウイルス感染症とそれに伴う社会経済活動の制限の影響により、極めて厳しい状況が続くと見込まれており、国内外の経済をさらに下振れさせるリスクも懸念されております。

当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンを通じたサービス消費が増加しており、市場も大きく拡大しております。また、第5世代異動通信方式(5G)のサービスが開始されるなど、モバイル及びインターネット関連ビジネスを取り巻く環境は日々変化しております。

一方で、音楽やアーティスト関連市場については、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、イベント開催やその収容人数が制限されるなど、今期(2022年3月期)も厳しい事業環境が続いておりましたが、徐々にライブ、コンサートに再開の動きが見られつつあります。

こうした事業環境の中、当社は、ファンという固定の顧客基盤を持ち、技術及び市場動向の影響を受けにくい、アーティストやキャラクター等のコンテンツを中心に、ファンクラブサイトを事業の軸に据え、新規アーティスト等の継続的な発掘と獲得、既存サイトのアプリ展開や、電子チケットとチケットトレード、ライブ配信といった新サービスの追加によって、新規有料会員の獲得と既存会員の維持や顧客価値の向上を進めております。

コンテンツ事業においては、会員獲得の間口を広げるべく、アーティストとファンの距離をより近づけ、ファンクラブ入会への動機づけをするためのポータルメディアとして「Fanpla」を開発いたしました。加えて、アーティストの規模に関わらず、アーティストなら誰でもファンクラブを開発することのできるサービスとして「Fanpla Kit」の提供も開始し、ファンクラブのプラットフォーム化と新規アーティストの獲得力の強化を進めてまいりました。今後につきましても、ファンクラブ/ファンサイトを基盤としながら、様々な新規サービスを付加していくことで、ファンクラブのメディア化を推進してまいります。同時に、ファンクラブ/ファンサイトの海外展開も視野に準備を進めております。

新型コロナウイルス感染症の影響が大きい電子チケット分野においては、プロ野球等の「カードコレクション」や、アーティストのサイン入りのグッズなどの商品を提供するオンラインくじ「メモコレ」、1 on 1 イベントを実現するライブトークアプリ「Meet Pass ライブトーク」など、電子チケット周辺領域のサービスを拡充することで、事業全体の基盤を固めてまいりました。

今後においてもライブ、コンサートの開催状況はいまだ不透明感が残りますが、拡大させた事業基盤のもとで、今後のイベントの再開を見据え、大手プレイガイドとの連携により電子チケット及びトレードサービスの普及と、利用の促進、マーケットシェアの獲得を進めてまいります。

加えて、VRを中心とした先端表現技術を用いたライブ動画の制作や配信やNFTのマーケットプレイスなど新たな事業領域の開拓や、子会社等を通じた他社との事業提携、並びに新規事業の開発にも引き続き取り組んでまいります。

以上の通り当社は、ファンという強固な事業基盤をベースにしながら、新規事業を展開していくことで、継続的な成長を目指しております。その一方で、新型コロナウイルス感染症が音楽やエンタテインメント業界に与える影響は大きく、感染症の収束やアーティストの活動再開などを予測することはいまだに困難であります。

しかしながら、新規に開設したファンクラブ/ファンサイトの会員獲得が順調に進み、既存のサイトでもアーティストの活動状況と歩調を合わせ会員の戻りが見られるなど、厳しい事業環境の中でも事業基盤となる会員数を着実に増加させてまいりました。また、一次流通及び二次流通の電子チケットなど収益性の高い事業からの売上構成割合が拡大したことで、全社的な収益率も向上しております。

費用面では、販売に比例し発生するロイヤリティや業容の拡大に伴う採用の強化による人材関連費用の増加などを見込んでおります。また、第4四半期において新規サービスの開始を予定していることや、業績が好調に推移していることから来期以降の将来の事業に対する先行投資を行い、開発費等として約2億円の計上を予定しております。

以上により、今期(2022年3月期)の見通しについては、売上高13,600百万円(前年同期比10.3%増)、営業利益1,700百万円(前年同期比53.6%増)、経常利益1,700百万円(前年同期比45.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益1,000百万円(前年同期比58.0%増)を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,740,478	5,985,802
売掛金	1,431,805	2,004,796
有価証券	80,000	-
商品	15,403	14,781
仕掛品	1,339	1,339
貯蔵品	20,222	8,831
その他	1,284,199	1,539,355
貸倒引当金	△1,332	△5,076
流動資産合計	7,572,117	9,549,830
固定資産		
有形固定資産	759,735	1,109,022
無形固定資産		
のれん	764,822	600,932
顧客関連資産	334,388	295,805
その他	60,602	98,482
無形固定資産合計	1,159,814	995,220
投資その他の資産		
投資有価証券	1,705,351	1,629,180
その他	642,592	623,454
貸倒引当金	△78,426	△78,041
投資その他の資産合計	2,269,518	2,174,593
固定資産合計	4,189,067	4,278,836
資産合計	11,761,184	13,828,667

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,789,212	3,960,447
未払金	1,019,050	1,689,485
未払法人税等	637,102	157,440
前受金	877,769	1,192,069
預り金	1,352,754	996,132
賞与引当金	42,863	20,987
役員賞与引当金	108,066	76,695
その他	277,288	172,405
流動負債合計	7,104,107	8,265,664
固定負債		
資産除去債務	39,298	39,634
繰延税金負債	155,123	121,121
その他	8,618	9,236
固定負債合計	203,041	169,992
負債合計	7,307,148	8,435,656
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	310,239	313,146
資本剰余金	3,688,991	3,684,064
利益剰余金	1,047,434	1,685,793
自己株式	△202,382	△202,663
株主資本合計	4,844,282	5,480,341
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△589,145	△398,161
その他の包括利益累計額合計	△589,145	△398,161
新株予約権	34,087	43,756
非支配株主持分	164,811	267,074
純資産合計	4,454,036	5,393,010
負債純資産合計	11,761,184	13,828,667

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	9,185,927	10,019,024
売上原価	6,356,772	6,663,304
売上総利益	2,829,155	3,355,720
販売費及び一般管理費	1,916,723	1,976,122
営業利益	912,431	1,379,597
営業外収益		
為替差益	-	1,345
受取賃貸料	1,364	1,544
投資有価証券売却益	21,715	69,903
受取手数料	10,535	10,031
役員報酬返納額	11,001	-
その他	6,079	847
営業外収益合計	50,695	83,672
営業外費用		
為替差損	1,565	-
支払手数料	5,135	4,392
営業外費用合計	6,700	4,392
経常利益	956,426	1,458,877
特別損失		
固定資産売却損	-	6,881
特別損失合計	-	6,881
税金等調整前四半期純利益	956,426	1,451,995
法人税、住民税及び事業税	477,096	497,380
法人税等調整額	△42,358	5,523
法人税等合計	434,738	502,903
四半期純利益	521,688	949,091
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△40,811	104,627
親会社株主に帰属する四半期純利益	562,499	844,463

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	521,688	949,091
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△317,449	190,983
その他の包括利益合計	△317,449	190,983
四半期包括利益	204,238	1,140,075
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	245,049	1,035,447
非支配株主に係る四半期包括利益	△40,811	104,627

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	電子 チケット 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,198,016	946,379	9,144,395	41,531	9,185,927	-	9,185,927
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,012	1,916	14,928	368	15,296	△15,296	-
計	8,211,028	948,295	9,159,324	41,899	9,201,223	△15,296	9,185,927
セグメント利益又は損失(△)	1,480,590	△129,821	1,350,768	△474	1,350,293	△437,861	912,431

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△437,861千円には、セグメント間取引消去2,475千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△440,337千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	電子 チケット 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,359,418	1,596,786	9,956,204	62,820	10,019,024	-	10,019,024
セグメント間の内部売上高又は振替高	47,893	307	48,201	1,078	49,279	△49,279	-
計	8,407,312	1,597,093	10,004,406	63,898	10,068,304	△49,279	10,019,024
セグメント利益	1,449,214	318,498	1,767,712	9,728	1,777,441	△397,843	1,379,597

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△397,843千円には、セグメント間取引消去5,149千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△402,993千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	コンテンツ事業	電子チケット事業	計		
ファンクラブ・ファンサイト事業等	7,634,898	-	7,634,898	-	7,634,898
EC事業	724,520	-	724,520	-	724,520
電子チケット事業	-	1,596,786	1,596,786	-	1,596,786
その他	-	-	-	62,820	62,820
顧客との契約から生じる収益	8,359,418	1,596,786	9,956,204	62,820	10,019,024
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	8,359,418	1,596,786	9,956,204	62,820	10,019,024

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アパレルやプロダクション事業が含まれております。

(重要な後発事象)

(株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更)

当社は、2021年11月12日開催の取締役会決議に基づき、2022年1月1日付で株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行っております。

1. 株式分割の目的

株式分割を行うことで投資単位当たりの金額を引き下げ、幅広い投資家の皆様に対して、より投資しやすい環境を整え、当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的としております。

2. 株式分割の概要

(1) 分割の方法

2021年12月31日（当日は株主名簿管理人の休業日につき、実質的には12月30日）を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する当社普通株式を、1株につき4株の割合をもって分割いたしました。

(2) 分割により増加する株式数

1) 株式分割前の発行済株式総数	9,119,997株
2) 今回の分割により増加する株式数	27,359,991株
3) 株式分割後の発行済株式総数	36,479,988株
4) 株式分割後の発行可能株式総数	96,000,000株

(3) 株式分割の日程

1) 基準日公告日	2021年12月15日
2) 基準日	2021年12月31日
3) 効力発生日	2022年1月1日

(4) 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、それぞれ以下のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
1株当たり四半期純利益	15.43円	23.37円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	15.42円	23.21円

(5) 資本金の額の変更

今回の株式分割に際し、資本金の額の変更はありません。

3. 定款の一部変更

(1) 定款変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2021年11月12日開催の取締役会決議により、2022年1月1日を効力発生日として、当社定款の一部（発行可能株式総数）を変更するものです。

(2) 定款変更の内容

変更の内容は下記のとおりです。

(下線は変更部分)

現行定款	変更後
(発行可能株式総数)	(発行可能株式総数)
第6条 当会社の発行可能株式総数は、 <u>24,000,000株</u> とする。	第6条 当会社の発行可能株式総数は、 <u>96,000,000株</u> とする。

(3) 定款変更の日程

取締役会決議日	2021年11月12日
効力発生日	2022年1月1日

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。